◉「うちこ往来」は身近な町の情報を伝えるコーナーです。皆さんからの情報をお待ちしています。　総務課　広報・広聴係　☎0893（44）6151

地域の素材や伝統の技を生かした こだわりの一品に出合える手仕事市

「IKAZAKIクラフトフェア」が８月24・25の両日、五十崎凧博物館で開かれました。木製食器やアクセサリー販売、ギルディング和紙制作の体験など、計20組がこだわりのものづくりを紹介。主催した五十崎商工連盟匠会の成田幸子さんは「作り手の発表の場であり、皆さんと交流し刺激をもらえる機会。手仕事の素晴らしさを伝え、みんなで残していきたい」と思いを語りました。

綿を専用の道具でほぐし、糸を紡ぐワークショップ

共生館の開館30周年記念事業シリーズ 演技のプロに学ぶ「からだから考えるからだ」

ダンスなどの身体表現を学ぶワークショップが８月24日から９日間、共生館で開かれました。小学生向け、高齢者向けなど４講座に76人が参加。俳優の渡辺芳博さん、振付師の下司尚実さんから、リズミカルに体をたたく遊びやチャンバラの表現、表情の作り方などを教わりました。劇団オーガンス団員の久保博樹さんは「こんな体の動かし方もあるんだ、と新鮮だった」と話しました。

最終日の成果発表では「夏の思い出」をダンスで表現

林業を見て、触れて、楽しんで 体験型イベント「ワンフォレ」開催

林業や森について楽しく学べるイベント「ワンツーツリーフォレスト」（同実行委員会主催、武田惇奨委員長）が８月24・25の両日、ソルファ・オダスキーゲレンデで開かれました。７回目となる今回は過去最多の延べ1,200人以上が来場しました。参加者はグラップルでの丸太積み、高所作業車体験、林業機械シミュレーターなどでプロが行う作業に挑戦。他にも端材を使った木工ワークショップや、木のトンネルのフォトスポット、林業機械の展示・実演など森にまつわる多彩な催しがあり、子どもも大人も楽しみながら林業への関心を深めました。

第１回から参加しているという一宮昌海さん（小学５年）＝松山市＝は「ミニシャベルのボールすくいが毎回楽しみ。格好いい機械を真近で見たり、乗ったりできる特別な時間。来年も遊びたい」と笑顔でした。武田さんは「林業の面白さ、木を切る以外にも多様な仕事があることを子どもたちに伝えたい。楽しい経験が将来、林業を志すきっかけになり、いつか一緒に仕事ができたらうれしい」と思いを語りました。

1_ラジコンを操縦して丸太を持ち上げよう　2_水に浮かぶ景品をミニシャベルですくう　3_木工品づくりができるコーナーも　4_大きな機械を操縦する丸太積みも人気

12色のチョークが教室を彩る 新学期の子どもたちにサプライズアート

２学期が始まった９月２日、登校してきた天神小学校の児童を「黒板アート」が出迎えました。制作したのは近代日本美術協会理事の長野雅彦さんと、四国中央市出身の日本画家・伊東正次さん。２人は夏休み明けの児童に明るい気持ちで過ごしてもらおうと、各学年の教室に夏の風景やトリックアートなどを描きました。色鮮やかな黒板に子どもたちは「すごくリアル」「どうやって描いたのかな」と思わず笑顔に。宮田悠加さん（２年生）は「海の絵を見て爽やかな気持ちになった」と見入っていました。作者の意向で絵はその日に消され、児童らは名残を惜しみながら新学期に気持ちを切り替えました。

企画した長野さんは「子どもたちが笑顔になってくれたらうれしい。絵は消えても感動を心にとどめ、感性豊かに育って」と語りました。伊東さんは「黒板アートはもらう側も、贈る側もうれしいプレゼント。地域の皆さんもぜひ描いてみて」とほほ笑みました。

1_制作した長野さん（左）と伊東さん　2_夏らしいヒマワリと入道雲が描かれた３年教室　3_いつもの黒板が、この日は大きなキャンバスに　4・5_絵は消えても思い出はそのままに　6_大きなクジラの絵の前で

中村さん（中央）が抱える約２㌔のマダイに興味津々

国内シェア１位・県産マダイ、食べた〜い メニュー開発に向けた県の食育教室

内子小学校５年生を対象に「魚食ワークショップ」が９月11日、同校で開かれました。料理研究家の中村和憲さんが「食材はうま味を掛け合わせると、数倍おいしくなる」と話し、マダイの三枚おろしを実演。切り身を昆布だしのしゃぶしゃぶで味わった児童は「新鮮でおいしい」と笑顔でした。今後はマダイを使うメニューを児童らが考案。１月に内子学校給食センター管内で提供します。